

長崎国際大学 職業実践力育成プログラム(BP):履修証明プログラム 自己点検・評価表

【プログラム名】

- 2015(平成27)年度:「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ 【1名修了】
- 2016(平成28)年度:地域の福祉リーダー育成講座 【3名修了】
- 2017(平成29)年度:地域の福祉リーダー育成講座 【1名修了】

【自己評価基準】

- 4: 計画を上回って実施している。
- 3: 計画を十分に実施している。
- 2: 計画を十分に実施していない。
- 1: 計画を実施していない。

【総合評価】

外部評価の総点/委員総数  
(小数点第2位を四捨五入)

2015(平成27)年度:「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ 【1名修了/アンケート回答1名】

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>1. プログラムの目的・概要</b>			
<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 世界遺産に登録されるということは、遺跡、景観、自然など、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件と認められるということであると同時に、世界遺産を担い保全していく責務が生じるということである。 ユネスコの設立の目的とその精神を学ぶと共に、地域の活力源となる観光資源としての「観光経済」、観光客増加に伴う諸問題としての「観光倫理」を多面的に学ぶことにより、世界文化遺産とともに生きる責務を担う地域の課題および共生について、今年登録された「明治日本の産業革命遺産」と来年世界遺産登録を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」について考察する。</p>	<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 全学共通科目である「哲学」、教職科目である「人権と平和」、本学人間社会学研究科観光学専攻科目である「観光倫理特講」、「観光経済特講」の4科目において、総時間数120時間にて実施した。</p>	<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 自己分析に基づき、カリキュラムを計画的に実施したことにより、計画を十分に実施していると判断できる。</p>	3

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート)</b>			
<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 履修修了生に対し以下の質問を行なった。</p> <p>【問1】履修証明プログラムのカリキュラム、及び指導内容等は、満足しましたか。</p> <p>【問2】身につけることのできる能力として、大学院の講座や講義等を受講することにより、体系的な知識・技術等の修得が出来たと思いますか。</p> <p>【問3】履修証明プログラムを履修して、ご自身の能力がレベルアップしたと思いますか。</p>	<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 アンケート結果は、</p> <p>【問1】:①大いに思う</p> <p>【問2】:②思う、</p> <p>【問3】:②思う</p> <p>と履修修了生からは5段階中、「①大いに思う:5」、「②思う:4」評価を得た。</p>	<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】</p> <p>自己分析に基づき、履修修了生アンケートからは5段階中、 ①大いに思う:5 ②思う:4 評価を得たことにより、計画を十分に実施していると判断できる。</p>	3
評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>3. 履修生の募集</b>			
<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 2015(平成27)年度と同プログラムは、定員5名にて募集。</p>	<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 結果的には定員5名に対し、1名の履修として行なった。充足率は20%。</p>	<p>【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 自己分析に基づき、定員充足率20%により、計画を十分に実施していないと判断できる。</p>	2

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>4. 履修生の修了</b>			
【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 2015(平成27)年度と同プログラムの修了生は、履修1名に対し、修了1名となった。	【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 履修1名に対し、1名の修了となり、修了率は100%。	【「世界遺産と観光との関係」を多面的に学ぶ】 自己分析に基づき、修了率100%により、計画を十分に実施していると判	3
評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	
<b>5. 意見聴取、情報交換、評価体制</b>			
①H28年度:第4回(1/30)、H29年度:第4回(2/2)、第5回(3/20)「全学教育会議」において、学内外からの意見を求めた。  ②H29年度:第1回(9/23)、第2回(3/19)「佐世保市と本学との連携連絡会議」において情報交換を行った。  ③H30年度第11回地域連携センター会議(2/6)における自己評価の実施、並びにH30年度第1回(1/31)「佐世保市と本学との連携連絡会議」における外部評価の実施(予定)。	①H28年度:第4回(1/30)、H29年度:第4回(2/2)、第5回(3/20)「全学教育会議」 学内外者に対し、履修証明プログラムを通じて「社会人に対するリカレント教育に対する必要性」を訴え、「期待している」等の意見があった。  ②H29年度:第1回(9/23)、第2回(3/19)「佐世保市と本学との連携連絡会議」  佐世保市に並びに本法人、及び本学との包括連携協定を締結している企業・団体と本学の「履修証明プログラム」について情報交換を行なった。同プログラムの周知・広報不足等の意見が多かった。	自己分析に基づき、「履修証明プログラム」について学内外者に対し、「社会人に対するリカレント教育に対する必要性」を訴えたこと、また同プログラムの履修修了生に対し「アンケート」を実施し、「履修証明プログラム」の満足度調査、改善点を含めた意見聴取の実施については、評価に値すると考える。  また、同プログラム実施3年後、外部者に対し、本学の「履修証明プログラム」に対する「外部評価」を実施したことは評価に値する。 以上の分析結果により、計画を十分に実施していると判断できる。	3

2016(平成28)年度、2017(平成29)年度:地域の福祉リーダー育成講座【4名修了/アンケート回答3名】

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>1. プログラムの目的・概要</b>			
<p>【H28地域の福祉リーダー育成講座】 「地域の福祉リーダー育成」 プログラムの目的は、地域の福祉形成力をリードする人材やその能力の向上</p> <p>【H29、H30地域の福祉リーダー育成講座】 「地域の福祉形成力をリードする人材育成」 プログラムの目的は、「福祉的な地域づくり」のための政策・計画立案能力、組織化、及び地域課題解決への具体的対応力を身に付けることで、地域の福祉形成力をリードする人材育成やその能力の向上</p>	<p>【H28地域の福祉リーダー育成講座】 全学共通科目である「哲学」、教職科目である「人権と平和」、本学人間社会学研究科観光学専攻科目である「観光倫理特講」、「観光経済特講」の4科目において、総時間数120時間にて実施した。</p> <p>【H29地域の福祉リーダー育成講座】 「まちづくりマネジメント特講」、「地域医療、保健特講」、「福祉政策経営特講」、「事例研究(地域福祉計画)」の4科目において、総時間数120時間にて実施した。</p> <p>【H30地域の福祉リーダー育成講座】 「まちづくりマネジメント特講」、「地域医療、保健特講」、「社会保障特講」、「事例研究(地域福祉計画)」の4科目において、総時間数120時間にて実施した。</p>	<p>【H28、H29、H30地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、カリキュラムを計画的に実施したことにより、計画を十分に実施していると判断できる。</p>	3

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート)</b>			
<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 履修修了生に対し以下の質問を行なった。 【問1】履修証明プログラムのカリキュラム、及び指導内容等は、満足しましたか。</p> <p>【問2】身につけることのできる能力として、大学院の講座や講義等を受講することにより、体系的な知識・技術等の修得が出来たと思いますか。</p> <p>【問3】履修証明プログラムを履修して、ご自身の能力がレベルアップしたと思いますか。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 アンケート結果は、 【問1】:①大いに思う2人、②思う1人 【問2】:①大いに思う1人、②思う2人 【問3】:①大いに思う1人、②思う2人  と履修修了生からは5段階中、「①大いに思う:5」、「②思う:4」評価を得た。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、履修修了生アンケートからは5段階中、 ①大いに思う:5 ②思う:4 評価を得たことにより、計画を十分に実施していると判断できる。</p>	3
<b>3. 履修生の募集</b>			
<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 2016(平成28)年度、2017(平成29)年度の同プログラムは、各年度定員5名にて募集。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 結果的には定員5名に対し、2016(平成28)年度3名、2017(平成29)年度1名の履修として行なった。充足率は40%。</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、2016(平成28)年度、2017(平成29)年度の2年間の定員充足率40%により、計画を十分に実施していないと判断できる。</p>	2

評価項目	自己分析	分析結果に基づく評価	自己評価
<b>4. 履修生の修了</b>			
<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 2016(平成28)年度、2017(平成29)年度の同プログラムの修了生は、2016(平成28)年度履修1名に対し修了1名、</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 2016(平成28)年度履修1名・修了1名、2017(平成29)履修3名・修了3名</p>	<p>【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、修了率100%により、計画を十分に実施していると判断できる。</p>	3
<b>5. 意見聴取、情報交換、評価体制</b>			
<p>①H28年度：第4回(1/30)、H29年度：第4回(2/2)、第5回(3/20)「全学教育会議」において、学内外からの意見を求めた。</p> <p>②H29年度：第1回(9/23)、第2回(3/19)「佐世保市と本学との連携連絡会議」において情報交換を行った。</p> <p>③H30年度第11回地域連携センター会議(2/6)における自己評価の実施、並びにH30年度第1回(1/31)「佐世保市と本学との連携連絡会議」における外部評価の実施。</p>	<p>①H28年度：第4回(1/30)、H29年度：第4回(2/2)、第5回(3/20)「全学教育会議」 学内外者に対し、履修証明プログラムを通じて「社会人に対するリカレント教育に対する必要性」を訴え、「期待している」等の意見があった。</p> <p>②H29年度：第1回(9/23)、第2回(3/19)「佐世保市と本学との連携連絡会議」 佐世保市に並びに本法人、及び本学との包括連携協定を締結している企業・団体と本学の「履修証明プログラム」について情報交換を行なった。同プログラムの周知・広報不足等の意見が多かった。</p>	<p>自己分析に基づき、「履修証明プログラム」について学内外者に対し、「社会人に対するリカレント教育に対する必要性」を訴えたこと、また同プログラムの履修修了生に対し「アンケート」を実施し、「履修証明プログラム」の満足度調査、改善点を含めた意見聴取の実施については、評価に値すると考える。 また、同プログラム実施3年後、外部者に対し、本学の「履修証明プログラム」に対する「外部評価」を実施したことは評価に値する。 以上の分析結果により、計画を十分に実施していると判断できる。</p>	3